

## ワーキングC：レファレンス事例について

課題事例は「1996年の風俗について調べたい」であった。事前に参加者それぞれが作成した回答プロセスを元に意見交換を行った。意見交換では課題のような「漠然とした質問」を受けた場合、どのように対応するか、が話題となった。

まずレファレンスインタビューにおいて確認するのは、どのような目的で調べているのかという点である。授業の課題である、論文のテーマを選んでいる、論文を執筆中である、など様々な状況が考えられる。状況に応じたサービスを行うことが重要ではないか、さらに質問の主題をつかむためのインタビューも欠かせないとの意見も多かった。その後、テーマを「1996年の日本の世相や流行」と仮定して、紹介できる文献も検討した。

賛同する意見の多かった回答プロセスをベースに、意見交換の結果を参考にして追加・訂正し、以下のような全体発表を行なった。

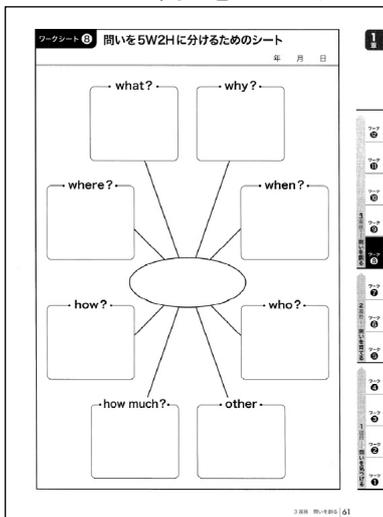
### 回答プロセス

#### 1. レファレンスインタビュー

- 1-1. 質問の背景
- 1-2. きっかけとなった情報源はあるか
- 1-3. 対象地域はどこか
- 1-4. 1996年と指定する根拠は何か
- 1-5. 「風俗」のどの分野を知りたいのか  
(文化・流行・儀礼・性風俗など)

レファレンスインタビューを行う際に活用できるワークシートがある。

「問いを5W2Hに分けるためのシート」



活用例: 中心にテーマを入れ、5W2Hに当てはめながらレファレンスインタビューを行う。聞き忘れを防止するとともに、質問の全体像を捉えるのに役立つ。また、質問内容を分析する際にも活用できる。

出典: 『問いをつくるスパイラル：考えることから探究学習を

はじめよう!』(日本図書館協会 2011)pp. 60-61 ワークシート⑧

#### 2. 基本事項の確認

百科事典などにより「風俗」という言葉の意味を調べる。さらにテーマを絞り込むヒントとして関連キーワードなどを提示する。参考文献などもここでおさえておく。実際にテーマを決めるのは質問者自身であることを踏まえて、幅広い分野の資料を提供して、テーマの絞り込みに役立ててもらおう。

##### 2-1. ウェブサイトからの関連キーワード提示例

「Web NDL Authorities <http://id.ndl.go.jp/auth/ndla>」で普通件名を選択し、「風俗」で検索、「風俗・習慣」を選択する。上位語・下位語・同義語・分類・グラフィカル表示などを質問者と共に確認する。

#### 3. 絞り込み

提供した資料をもとに、テーマの絞り込みや質問内容の具体化を行なう。質問内容が具体化した場合は、資料の探し方などを案内する。

#### 4. 文献紹介(例)

質問者は「風俗」という単語に固執する場合がある。キーワードの関連性をイメージしやすくするため、最初に提供する資料は「風俗」という語がタイトルにある資料を選び、順に類似資料を提供する。さらに質問者と共にブラウジングを行う。

##### ○紹介資料の例

『現代世相風俗史年表』(河出書房新社)、『昭和・平成家庭史年表』(河出書房新社)、『朝日年鑑』(朝日新聞社)、『現代用語の基礎知識』(自由国民社)、その他新聞記事・雑誌記事など

#### <まとめ>

テーマが漠然としている質問者には、レファレンスインタビューが重要であり、特にどのような目的で調査しようとしているのかという質問の背景をつかむ事と、テーマを絞り込むための資料提供を意識して対応する必要がある。

さらに講師の杉山先生からは、「対面ではない場合のレファレンスを想定した対応も検討する必要がある」、「事例は記録に残し、その記録は第三者が見てもわかりやすいフォーマットを確立させて蓄積・共有する」等のこれからの課題について補足があった。

発表・記録：求野 弥生 (愛知淑徳大学図書館)

## ワーキングC: 自館で有用と考えるインターネット上のレファレンスツール

No.	サイト名称	特 徴
1	CiNii	<p><a href="http://ci.nii.ac.jp/">http://ci.nii.ac.jp/</a></p> <p>CiNii Articlesは、学協会刊行物等の学術論文情報の検索が可能。ほとんどの大学図書館で学生が論文を探す際に紹介しており、その利点として以下3点が挙げられる。1)学外での検索が可能なので、学生が自宅でも調べられる。2)PDFオープンアクセスや機関リポジトリへのリンクがあるため、学生の金額負担を減らすことができる。3)CiNii Booksにより他大学の所蔵確認がスムーズに行える。</p>
2	NACSIS Webcat	<p><a href="http://webcat.nii.ac.jp/">http://webcat.nii.ac.jp/</a></p> <p>全国の大学図書館等が所蔵する図書・雑誌の総合目録データベース。自館にない資料の所蔵館を調べるのに利用する。但しWebcatは平成25年3月8日(金)を以てサービスが終了し、後継サービスとして、検索機能をより拡張したCiNii Booksが提供される。</p>
3	WebcatPlus	<p><a href="http://webcatplus.nii.ac.jp/">http://webcatplus.nii.ac.jp/</a></p> <p>全国の大学図書館や国立国会図書館などの書誌情報を統合・整理して提供している。大学図書館での主な活用法は以下の3点が挙げられる。1)文献取り寄せや他館訪問のための所蔵調査。2)具体的なキーワードを決めていない学生へのレファレンスのための連想検索や連想ワードの紹介。3)読むべき図書を絞りきれない学生のための目次表示の紹介。</p>
4	新書マップ	<p><a href="http://shinshomap.info/search.php">http://shinshomap.info/search.php</a></p> <p>文章や言葉から関連するテーマ・キーワードを表示し、テーマに沿った新書・選書を探し出す検索システム。連想検索機能により、漠然とした要求からでも関連テーマを探し出し、表示されたテーマからさらに次のテーマ・キーワードへ検索を広げるなど、新しい視点からも関連テーマを発見できる。テーマごとに読書ガイドが付いており、新書リストからは内容や目次を表示できるので、初学者向けに図書を紹介する際、参考になる。</p>
5	国立国会図書館サーチ	<p><a href="http://iss.ndl.go.jp/">http://iss.ndl.go.jp/</a></p> <p>国立国会図書館が提供する統合検索データベース。国立国会図書館が所蔵する資料の全てを探すことができるほか、都道府県立図書館、政令指定都市の市立図書館の蔵書、国立国会図書館や他の機関が収録している各種のデジタル情報などを探すことができる。ヒット数が膨大となるため、キーワード設定と絞込みが重要である。デジタル資料の中には、著作権の関係で「館内公開」に限定されている資料も含まれる。</p>
6	リサーチ・ナビ	<p><a href="http://rnavi.ndl.go.jp/rnavi/">http://rnavi.ndl.go.jp/rnavi/</a></p> <p>国立国会図書館員が選択した図書資料、ウェブサイト、各種データベース、関係機関情報などを特定のテーマ、資料群別に紹介している。特定テーマ(トピック)の調べものに役立つ資料や調べ方のノウハウが提供されているため、調査の入り口がわからない時は有効に活用できる。レファレンス協同データベースも検索でき、同じ分野の事例があれば直接回答へ繋がる場合もある。</p>
7	レファレンス協同サービス	<p><a href="http://crd.ndl.go.jp/jp/public/index.html">http://crd.ndl.go.jp/jp/public/index.html</a></p> <p>公共図書館、大学図書館、専門図書館等におけるレファレンス事例、調べ方マニュアル、特別コレクション及び参加館プロフィールに係るデータを蓄積し、並びにデータをインターネットを通じて提供することにより、図書館等におけるレファレンスサービス及び一般利用者の調査研究活動を支援するサイト。自館の対応記録としても活用が可能。</p>
8	近代デジタルライブラリー	<p><a href="http://kindai.ndl.go.jp/">http://kindai.ndl.go.jp/</a></p> <p>国立国会図書館が所蔵する明治期以降に刊行された主に帝国図書館の蔵書等のデジタル化資料をインターネットで閲覧できるサービス。明治・大正時代の文献を調査する際に参考にすることもでき、インターネット上で本文を閲覧することもできるので、回答として直接利用者に案内もする。</p>

No.	サイト名称	特 徴
9	Web NDL Authorities	<a href="http://id.ndl.go.jp/auth/ndla/">http://id.ndl.go.jp/auth/ndla/</a> 国立国会図書館が維持管理する典拠データを一元的に検索・提供するサービス。典拠データを「キーワード検索」「分類記号検索」により検索できる。そのため、入力したキーワードの下位概念や、関連語、上位概念を調べることができる。利用者のキーワード検索の手助けや、統制語を探すのに有用。 また、ブラウジングをする際の分類番号を検索する際にも使える。
10	J-STAGE	<a href="https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja">https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja</a> 科学技術振興機構(JST)が運営する国内科学技術情報関係論文収集・公開サイト。学協会が発行している学会誌、論文誌を電子化し、インターネット上に掲載している。科学技術系の雑誌論文や、学会予稿集・要旨集、報告書、JST報告書などを収録。大半の論文を無料公開しているため、利用者にも直接本文を紹介できるので提供しやすい。査読付き論文が多く含まれているのも特徴。
11	J-GLOBAL	<a href="http://jglobal.jst.go.jp/">http://jglobal.jst.go.jp/</a> 科学技術振興機構(JST)提供のWebサービス(2012年9月26日に正式リリース)で、研究者、文献、特許、研究課題など10種類の基本情報間を一括検索できる。 検索時に表示される別名・同義語で検索を広げたり、シソーラスmapによって適切な専門用語や異表記語を検索用語に追加できる。 各基本情報には絞り込み検索機能があり、その内訳件数も表示される。研究者では、所属や研究分野などでの絞り込みができる。
12	e-Stat政府統計の総合窓口	<a href="http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/eStatTopPortal.do">http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/eStatTopPortal.do</a> 政府統計の総合窓口(e-Stat)とは、全府省が作成・公表する幅広い分野の統計調査結果を、インターネット上で総合的に提供しているポータルサイト。 知りたい統計データを探すための検索機能をはじめ、グラフの表示、地図上への統計データの表示もできるなど、さまざまな機能を備えた便利なサイトである。 例えば全国の小学校の数を知りたい場合には、次のように検索する。 統計の教育・文化・スポーツ・生活→学校基本調査→小学校→都道府県別学校数
13	厚生労働省科学研究成果データベース	<a href="http://mhlw-grants.niph.go.jp/">http://mhlw-grants.niph.go.jp/</a> 厚生労働省科学研究費補助金等で実施した研究報告書の概要版(抄録)および画像ファイルで取り込んだ報告書本文をデータベース化して、インターネット上で閲覧、検索することができる。対象となる研究課題は、厚生科学研究費補助金、心身障害研究費補助金、特定疾患調査研究費補助金の全課題。平成9年度から現在までの報告書が収録されている。
14	厚生労働省白書等データベース	<a href="http://www.hakusyo.mhlw.go.jp/wp/index.htm">http://www.hakusyo.mhlw.go.jp/wp/index.htm</a> 「厚生労働白書」「労働経済の分析」「海外情勢報告」「働く女性の実情」「母子家庭の母の就業の支援に関する年次報告」の全文を横断検索することができる。 キーワード、発行年で絞り込み検索が可能。
15	内閣府統計情報・調査結果	<a href="http://www.esri.cao.go.jp/index.html">http://www.esri.cao.go.jp/index.html</a> 内閣府 経済社会総合研究所 統計情報・調査結果のホームページで、景気統計(景気動向指数、機械受注統計調査、法人企業景気予測調査、消費者動向など)や国民経済計算(GDP統計)など最近の経済関係の統計が公開されている。 消費者動向調査では毎月の調査を長期時系列表(EXCEL形式)としてまとめられており、消費者統計などに利用できる。 愛知県の統計は愛知県県民生活部統計課( <a href="http://www.pref.aichi.jp/toukei/">http://www.pref.aichi.jp/toukei/</a> )が利用できる。
16	環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書	<a href="http://www.env.go.jp/policy/hakusyo/">http://www.env.go.jp/policy/hakusyo/</a> 環境省が発行する環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書の電子版であり、公害白書(昭和44~46年版)も含まれている。 キーワードから白書の全文検索と、年度の範囲指定ができる。最近のものには語句説明にもリンクが設定されているので、意味を確認しながら読める。 また、全文検索はできないが、図で見る環境白書やこども白書も同ページから電子版を閲覧できる。

No.	サイト名称	特 徴
17	特許電子図書館	<p><a href="http://www.ipdl.inpit.go.jp/homepg.ipdl">http://www.ipdl.inpit.go.jp/homepg.ipdl</a></p> <p>独立行政法人工業所有権情報・研修館が運営する特許、実用新案、意匠及び商標等の産業財産権関連の無料のデータベース。特許庁が保有する明治以降発行された5,500万件以上の情報を収録しており、特許庁が発行する産業財産権関連の公報をはじめ、審査権利の状況や、審判の審決も検索できる。JIS、ISO、IEC規格について規格番号や標題等から検索が可能。</p>
18	Google Books	<p><a href="http://books.google.co.jp/">http://books.google.co.jp/</a></p> <p>本のタイトルだけでなく、本の中身も検索が可能である。書籍の一部を表示したり、書籍の著作権が失効している場合には、書籍全体の閲覧とダウンロードが可能。書籍の一部とはいえ、実際には多くの部分が掲載されているので、読むべき図書かどうかを判断することが可能。</p>
19	Google Scholar	<p><a href="http://scholar.google.co.jp/">http://scholar.google.co.jp/</a></p> <p>分野を問わず、学術論文・図書に関する情報を検索することができるデータベース。検索の際には最も関連性の高い情報がページの上部に表示され、さらに他の学術資料に引用された回数まで表示してくれるため、その文献がどれくらい重要なものであるかどうかを見極めることができる。また、他のデータベースにおいて全文表示されない論文でもGoogle Scholarでは表示可能である場合があり、そういった点でも非常に便利なツールである。</p>
20	DOAJ	<p><a href="http://www.doaj.org/">http://www.doaj.org/</a></p> <p>Lund University Libraries提供のオープンアクセス(無料公開された学術論文をインターネット上で自由に利用できる)の電子ジャーナルを集めたデータベース。英語・フランス語・ギリシャ語・トルコ語の4言語から検索できる(日本語はない)。Open Access infoから様々な論文の全文検索ができ、ILLを申し込む前に全文データがないかどうか確かめるのに便利なツールである。</p>
21	JJRNav	<p><a href="http://jcross.jissen.ac.jp/atoz/index.html?b_type=AtoZ">http://jcross.jissen.ac.jp/atoz/index.html?b_type=AtoZ</a></p> <p>DOAJの後継データベース。WebcatPlusやWorldCat等の図書書誌横断検索やCiNii、国文学論文目録データベース等の雑誌記事・論文の横断検索が可能。無料電子ジャーナルの検索もできる。検索の際にデータベースを選択しなければならないため、各データベースの特性を知った上で使用する必要がある。大量のILL申込に対応する際に、全文データの有無を確認する際に便利である。</p>
22	カーリル	<p><a href="http://calil.jp/">http://calil.jp/</a></p> <p>全国の図書館の蔵書情報と貸出状況を簡単に検索できるサービス。一度の検索で、複数の図書館の蔵書とAmazon等の書誌データベースを同時に検索することができる。本を検索するとき地名を選択すると、その場所から近い図書館を自動的に選択して検索できるので、欲しい本が近くの図書館で貸出可能かすぐに分かる。</p>
23	紀伊国屋BookWeb	<p><a href="http://bookweb.kinokuniya.co.jp/">http://bookweb.kinokuniya.co.jp/</a></p> <p>和書、洋書、電子書籍 1000万件のデータベースから本を探すことができる。簡単に検索でき、本の詳しい情報、著者紹介、在庫状況が分かり、本の表紙もみることが可能。本の詳細が載っているので、選書の際に大いに参考になり選びやすい。とくに資格試験問題集などは、発行年の新しい資料が必要とされるため、検索結果の並び替えで新しい資料順に並べ替えて検討することが可能。</p>
24	国文学論文目録データベース	<p><a href="http://base1.nijl.ac.jp/~ronbun/">http://base1.nijl.ac.jp/~ronbun/</a></p> <p>『国文学年鑑』(日本国内における国文学関係の研究論文目録)を反映したデータベース。日本国内で発表された雑誌紀要・単行本(論文集)等に収められた論文に関する情報を掲載しており、国文学関係に特化した論文を多数収録していることから専門性に優れている。CiNiiで検索しても検出されない論文を収録しているため、国文学専攻がある大学においては非常に有益なツールである。</p>

No.	サイト名称	特 徴
25	WAM NET(ワムネット)	<p><a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a></p> <p>独立行政法人 福祉医療機構が運営する福祉・保健・医療の総合情報サイト。福祉・保健・医療の施設・事業所情報や制度・資格に関する情報、イベント情報などについて自由に閲覧ができるワムネットオープンと、会員登録をすることで情報発信・交換が可能なワムネットコミュニティ(登録料、情報利用料は無料)がある。また、行政情報(厚生労働省で開催された審議会、検討会、課長会議等の資料や通知など)の閲覧も可能。</p>
26	闘病記ライブラリー	<p><a href="http://toubyoki.info/">http://toubyoki.info/</a></p> <p>病を経験した患者やその家族、患者を支える人によって書きつづられた記録である、闘病記を紹介するサイト。書籍のタイトルに病名が入っていない場合でも、病気の種類でカテゴリ分けされているので簡単に探すことができる。また、背表紙の画像が表示されるため、実際に書店で書籍を探す感覚で閲覧ができ、目次や前書きも公開されている。Webcat-Plusにもリンク。研究グループ「健康情報棚プロジェクト」の協力を得て、NPO法人「連想出版」が運営している。</p>
27	YAHOO!百科事典	<p><a href="http://100.yahoo.co.jp/">http://100.yahoo.co.jp/</a></p> <p>小学館の「日本大百科全書(ニッポニカ)」(1984-1994刊、全26巻)をベースに、毎月更新されるデジタル版百科事典。キーワード検索やカテゴリ検索が可能のほか、本文に書かれているキーワードにもリンクがあり、気になる言葉をワンクリックで調べることができる。関連キーワードも表示されるため、調査内容に関連する情報も容易に入手可能。動画の閲覧も可能。</p>
28	コトバンク	<p><a href="http://kotobank.jp/">http://kotobank.jp/</a></p> <p>朝日新聞・朝日新聞出版社・小学館・講談社などの出版社から発行している事典を検索できるWEB事典。また、その分野で実績のある企業が作成した専門用語事典も含め、109の辞書から検索することができる。レファレンス質問の基本的な事柄について確認、事前調査に使用するのに有用。話題のキーワードであれば、関連ニュースも表示される事もあるので便利でユニーク。</p>
29	手紙の書き方大事典	<p><a href="http://www.letter110.net/">http://www.letter110.net/</a></p> <p>ビジネスや日常生活における手紙の書き方マナーと、月別・季節別・行事別の用途に応じた手紙の書き方文例・例文を紹介。手紙に関する基礎知識やマナーから、手紙の基本構造、用途別の文例、さらには封筒の書き方や手紙の折り方など、幅広く細かい内容を確認することができる。学生から問い合わせが多い、実習先へのお礼状の文例も掲載されている。</p>
30	伝わるデザイン研究 発表のユニバーサル デザイン	<p><a href="http://tsutawarudesign.web.fc2.com/index.html">http://tsutawarudesign.web.fc2.com/index.html</a></p> <p>プレゼンテーションの際に必要なポスター・スライド・レジュメなどの制作方法について、基本的なルールやテクニックを紹介しているサイト。「読みやすく」「見やすく」「カッコよく」の3項目に分けて、デザインの効果などが分かりやすく解説されており、自身の言いたいことを正確かつ効果的に聞き手に伝えるための方法が示されている。図書館においても必要なプレゼンスキルを身に付けることができる手近なツールである。</p>
31	愛知県内図書館 横断検索 愛蔵くん	<p><a href="http://www.aichi-pref-library.jp/oudan/aichi_oudan_f.htm">http://www.aichi-pref-library.jp/oudan/aichi_oudan_f.htm</a></p> <p>愛知県内公共図書館や専門図書館の所蔵を一括検索ができる。主な活用法は、週刊誌など公共図書館に所蔵がありそうな資料を希望されたり、利用者ができるだけ早く安価に資料の入手を希望されたりした際に、所蔵確認のために使用する。図書館選択で予め利用者が希望する地区の図書館に絞った検索をすることが可能。また、岐阜県横断検索や三重県総合目録へのリンクもあり、東海地区に住む学生への対応が可能。</p>
32	東海地区お薦め レファレンスツール一覧	<p><a href="http://ci.nii.ac.jp/vol_issue/nels/AN00047850/ISS0000465183_ja.html">http://ci.nii.ac.jp/vol_issue/nels/AN00047850/ISS0000465183_ja.html</a></p> <p>2010年度 東海地区研究会実務担当者研修会 ワーキングCで作成されたレファレンスツールの一覧表。76のツールがまとめられていて、ツール毎にURL、提供元、概要、有料無料等の解説がされている。上記URLは館灯2010年 第49号のCiNiiのURL。2010(平成22)年度実務担当者研修会記録に記載されている。</p>